



四 国

岸 啓 子

四国唯一のプロオーケストラである瀬戸フィルハーモニーは創立15周年にして念願の日本オーケストラ連盟入りを果たした(準会員)。創立以来の常任指揮者N・ビジャヤ氏を迎えての第27回定期(ホルスト作曲「惑星」)をはじめ「春の音楽鑑賞会」「クリスマスコンサート in 坂出」「綾川町合併10周年記念演奏会」(指揮:林直之 独唱:渡辺理香)等のステージ、四国二期会オペラでの愛媛遠征、更にはハロウィーン・コンサート、街クラシックへの演奏者派遣、瀬戸フィルメイトによる茶菓付き演奏会、FM香川の音楽番組「ゴーシュの部屋」への出演等まさに神出鬼没の活躍を見せた。クラシック愛好家の自然増を期待できないこの時代、ターゲットと目的を変えた年数回の多様なステージ、地域密着型アウトリーチ、FM放送タイアップ、若い賛助会員の活用等、地方にあるオーケストラとして存続発展のために工夫と努力を惜しまぬ瀬戸フィルの姿勢に敬意を表したい。ジュニア・オーケストラや市民文化祭のサポート等を通して同じ姿勢を共有する高松交響楽団(創立65周年)は前年に続き高松国際ピアノコンクール入賞者を迎えて(第115回 指揮:田中一嘉 Pf:リード希亜奈)シューマンのピアノ協奏曲を演奏、第116回は「洗練された優雅な調べ×壮大で神秘的な響き」のテーマでチャイコフスキーのセレナーデとホルストの「惑星」を演奏した(指揮:曾我大介)。

徳島交響楽団はベートーヴェンのピアノ協奏曲「皇帝」とホルストの「惑星」(指揮:田中一嘉 Pf:坂本真由美 第45回定期)を演奏、四国2県でホルストの惑星が3回取り上げられた年となった。高知交響楽団はベートーヴェンの交響曲全曲演奏プロジェクトを第157回定期「第9番合唱付」で完結させた(創立85周年、指揮:高橋敏仁 独唱:田中恵津子 北野知子 谷浩一郎 菊田隼平)。人口4万人弱の四万十市で94年から続く四万十川国際音楽祭においては中村交響楽団が山下洋輔作曲(編曲狭間美徳)「流れの風景 The Scenery of the Stream」(委嘱作品)の世界初演をはたした。

県民から深く愛されている愛媛交響楽団は秋の定演を、創立55周年の愛媛県合唱連盟との合同演奏会「愛媛県民の第九」として盛り上がりを見せた(指揮:森口真司 独唱:藤井冨 三津山和代 澤原行正 宮本益光)。第9演奏会は、「かがわ第9を歌う会」(指揮:飯守泰次郎 関西フィル)、鳴門市の「第9を歌う会」によっても例年通り開催されている。

四国二期会は愛媛支部が『フィガロの結婚』(指揮:時任康文 演出:十川稔 ダブルキャスト 瀬戸フィル)を上演した。香川支部はニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル(指揮:高原守)とオペラガラを、高知支部は没後100年トスティ歌曲演奏会を、徳島支部は親子の為のコンサートを実施した。オペラえひめは「カルミナ・ブラーナ」(指揮:加藤完二 ソロ:藤本美穂 澤原行正 宮本益光)を、オペラ徳島は『リゴレット』(指揮:中井章徳 演出:唐谷裕子 リゴレット:成田博之)をそれぞれ上演した。

高知バツハカンタータフェライン(主宰・指揮 小原浄二)はホール演奏会(第19回定期)と教会コンサートを精力的にこ

なし、松山バツハ合唱団はバツハの有名カンタータ、ルネサンス期のアカペラ曲、チェンバロ独奏を並べた45回定期(指揮:橋本眞行 独唱:大野内愛 高橋ちはる 黄木透 竹内利樹 チェンバロ独奏:大澤宣晃)、バツハのカンタータとコラールによる第46回定期(指揮:橋本眞行 独唱:藤井冨 山下裕賀 沼田臣矢 松田亜蘭 オルガン:中村証二)で實力を示した。コレギウム・ムジクム高松(主宰:大山晃)も健在である。

創作オペラは、シェイクスピアによる『お気に召すまま』(作曲指揮:大山晃 作詞:山本恵三)が高松市で初演され、高知県では四万十川の民話による町民創作オペラ『四万十』(作詞:溝渕和久 作曲:岩本圭司 演出:大島尚志 マンドリンオーケストラ)が5年ぶり7度目の上演を果たした。